

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	0770400760		
法人名	株式会社 愛心会		
事業所名	ほととファミリーぞうの目		
所在地	福島県いわき市佐糠町東一丁目10-8 (電話) 0246-62-0111		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H21.1.21	評価確定日	

【情報提供票より】(平成20年10月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤8人, 非常勤1人, 常勤換算7.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	500 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(10月2日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名	
要介護1	1 名	要介護2	2 名			
要介護3	4 名	要介護4	1 名			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	87.6 歳	最低	85 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	榎田病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者を始め職員一人ひとりの笑顔がとても印象的で良い雰囲気のある事業所である。職員は明るく、利用者一人ひとりの性格や生活歴などに応じた細やかな対応を行っている。介護保険制度が始まると同時に開所した事業所は、充実した介護サービスが行われており、万が一グループホームで生活ができなくなった場合は同法人で運営している別事業所での対応ができるなど、利用者の状態に応じた生活が過ごせるようになっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価・改善の一つに挙がっていた「家族への報告」は預かり金については個別に出納帳で管理し家族に報告を行うなどの改善が行われている。改善課題に対し、できるところから全職員に改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は自己評価を行うことで、日常の介護を見直す機会と捉え、利用者にとって大切なことは何かを再確認している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催している。会議で出された意見については、地域包括支援センター等の関係機関の助言や協力を得ながらサービスに反映させている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の面会時、または必要に応じて電話連絡等で利用者の近況を報告をしている。また、隔月に発行している広報誌で利用者の暮らしぶりなどを伝えている。運営推進会議において利用者家族から出された意見に対して、検討を行い事業所の運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 月2回「傾聴ボランティア」の訪問を受け入れるとともに、近くの病院との連携や民生委員とのつながりを大切にしている。地域包括支援センターの協力を得ながら地域との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ほっとして安らげる家庭的な生活」といった事業所独自の理念を作り上げ朝礼時には職員間で唱和している。また、いつでも確認できるように事務室に掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者が安心して生活が出来るよう常に朝礼時には理念に触れている。また、日々理念を具体化できるよう意識してサービスの提供に努めている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月2回「傾聴ボランティア」の訪問を受け入れるとともに、近くの病院との連携や民生委員とのつながりを大切にしている。地域包括支援センターの協力を得ながら地域との交流に努めている。自治会・老人会・地域への行事参加といった交流行われていない。	○	地域の一員として地域で行われる行事や活動に参加し、地域住民とのつきあい深める取り組みを行ってほしい。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果の改善項目の一つに挙げがっていた「家族への報告」は、預かり金を個別に出納帳で管理し家族に報告を行うという改善が行われている。自己評価は、ミーティング時に話し合いを行いながら職員全員で取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に一回定期的に行っている。会議で提出された意見については、地域包括支援センター等の関係機関の助言や協力を得ながらサービスに反映させている。</p>		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時または必要に応じて電話連絡等で利用者の近況報告をしている。また、隔月に発行している広報誌で利用者の暮らしぶりなどを家族に伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議において利用者家族から出された意見に対して、検討を行い事業所の運営に反映させている。また日頃から家族の面会の際に声をかけ、話しやすい雰囲気作りに努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は最小限に抑えるように努めている。異動等が生じた場合は、OJT(職場内研修)を取り入れた引継ぎを行い、利用者に出るだけ影響を与えないよう配慮をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の育成に努めているが、管理者・職員を育てるために必要な個別年間研修計画が作成されていない。	○	各職員の経験年数や習熟度に応じて個人別の年間研修計画を立て、計画的に職員が研修に参加できる体制を整え、職員の育成を行ってほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者・他法人の事業者との交流や連携の機会が設けられていない。	○	県グループホーム連絡協議会に参加するなど地域の同業者や他の介護保険事業所との交流や勉強会等に参加し情報交換やネットワーク作りに努めてほしい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で利用者と一緒に作業を行うことで様々なことを利用者から学ぶ姿勢を大切にしている。一方的な介護ではなく、利用者職員は支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族に話を聞いて思いや意向の把握に努めている。意思表示の困難な利用者に対しては、なるべく見守り中心で様子を見ながら接したり、家族に協力してもらい本人の意向を把握するよう努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者、家族、関係者と話し合い、さらに内容をケアマネジャーと話し合い介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回全職員で評価を行い、定期的な見直しが行われている。月1回のミーティング時や毎朝の申し送りで変化が生じていると認められる場合は、随時見直しを行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望によりかかりつけ医の受診を継続している。かかりつけ医への受診は家族が行っているが、家族の付き添いが難しい場合は、職員が受診支援を行っている。協力医の往診と訪問看護も行われ適切に医療が受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人として看取りを行わないことや重度化や終末期に関して入所時に利用者や家族に対し説明を行っている。さらにその都度、状況に応じて話し合っている。利用者及び家族や職員、かかりつけ医など関係者で話し合い方針を共有している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に利用者と家族から個人情報保護の同意書をいただいている。書類は事務所で管理し、書庫や事務室には鍵がかかるようになっている。排泄の失敗や紙パンツ等の交換の際は、他の利用者にわからないようさりげなく対応するなどプライバシーを損ねないよう配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に沿った支援を行っており、利用者は居間でテレビを見て過ごしたり、畑作業や洗濯物を干したりたんだり、それぞれのペースで過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者9人分の好きな物を把握し、1週間に1回は好きな物が食べられるよう献立を工夫している。また職員と利用者が一緒に食事の準備や配膳を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は時間を設定することなく、利用者の希望に沿った入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	雑巾がけが日課だった利用者には掃除を手伝ってもらったり、畑作りを行っていた利用者には種や苗や肥料の購入から手伝ってもらい一緒に野菜を作ったりしている。写真撮影が趣味の利用者には、行事の時の写真撮影を担当してもらうなど一人ひとりの役割を大切にしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望に応じて散歩や買物やドライブなどの外出支援を行っている。帰宅願望の強い方へは、一緒に近所を散歩して気分転換を図るなどの支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関に鍵はかけずセンサーで外へ出ようとする利用者の把握を行い、鍵をかけないケアに取り組んでいる。また、同法人で経営している併設施設と互いに協力し合って利用者の見守りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て火災時の避難訓練を行ったり、個人用の避難袋を持って避難所まで避難する訓練を行っている。職員連絡網は昼・夜用と時間帯に合わせたものが作られている。しかし、夜間を想定した避難訓練や出火元別避難訓練、地域住民の協力を得た避難訓練は行われていない。	○	夜勤者が一人ということ踏まえ、特に夜間を想定した避難訓練も実施してほしい。また、地域住民の具体的な協力内容を決め、運営推進会議や民生委員を通じて地域住民の協力が得られるよう働きかけを行ってほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、協力病院の管理栄養士の指導を受けている。食事量や水分量は個人の記録に細かく記載され、職員全員が把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は、明るい天窓がありブラインドで光の調整を行っている。利用者は自然に居間に集まり自分の好きな場所で過ごしている。壁には行事の時の写真がきれいに飾られている。トイレや廊下など他の共有の空間は清潔感があり居心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は使い慣れたものを持参しており、個性を大切にした居室になっている。自分の趣味の作品や写真を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 ほっとファミリーぞうの目

記入担当者名 和田 昭雄

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。